

海外安全対策情報（2013年1月～3月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

当地は政治的には安定しており、現在のところ緊急事態に発展するような反政府勢力等の動きは特段見られない。

また当地ではサハリン州が北方領土を「行政管轄」していることから、北方領土問題については、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年2月7日（我が国では「北方領土の日」）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。本年については同様の集会等は行われていないものの、その年の日露情勢に応じて抗議集会の程度や規模も異なっており、今後も引き続き注意を要する。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般的治安情勢に関しては、殺人や女性などの弱者を狙った路上強盗や住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者をも含む女性への婦女暴行、大麻等の薬物所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多いが、金品の強奪を目的としたものも発生している。当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも過去発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

(2) 治安当局の発表によれば、2012年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は10,218件であり、2011年（10,026件）に比較し、約200件の増加となった。また以下内訳にもあるとおり、前年に比べ重度傷害や強姦の件数は若干減少したものの、殺人は10件以上の増加、強盗や窃盗も微増、また薬物違法流通については略横ばいの状況である等、当地の治安情勢は引続き厳しい状況にある。

(3) 主な内訳（括弧内は前年比）

ア 殺人及び殺人未遂	94件（119, 0%）
イ 重度傷害	185件（88, 9%）
ウ 強盗	35件（106, 1%）
エ 略奪	391件（80, 5%）
オ 窃盗	4139件（102, 3%）
カ 強姦及び強姦未遂	6件（60%）
キ 薬物の違法流通	1060件（96, 6%）
ク 詐欺	460件（178, 3%）
ケ 粗暴行為	9件（300%）

(4) 邦人被害事案

特になし

(5) 邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）

ア 強盗

- ① 1月14日午前1時頃、ユジノサハリンスク市レーニン通325番地付近において何者かが通行人を襲い、被害者から携帯電話を奪って逃走した。現場に駆け付けた警察官が被疑者の特徴を割り出し捜索を行ったところ、同市内ミーラ大通にて、当該被疑者を発見した。この際被疑者が逃走したものの追跡の後同人を拘束した。その後被害者による確認も行われたが、奪った携帯電話は所持していなかった。
- ② 1月24日早朝、タクシー運転手から警察に、乗車させていた2名の乗客に暴行を加えられた後、タクシーを奪われたと通報が入った。すぐに奪われた車両の特徴が全警察に伝達され、車両の一斉捜索が行われた。その後午前8時頃、ホルムスクの交通警察官が路上を監視中、ホルムスク市街地からユジノサハリンスク方面へ猛スピードで走り去る当該車両に類似の車両を認め、追跡しつつ停車を命ずるも一向に停車せず、威嚇射撃をしてもまだ停車しないため、逃走車両のタイヤに向けて発砲した。すると逃走者は車両を捨て、更に走って逃げようとしたが、警察官に拘束され、警察署に連行された。
- ③ 2月3日午前1時頃、ユジノサハリンスク市コムソモーリスカヤ通で、3名の不審者が通行人をナイフの様なもので脅し、金の指輪、携帯電話、現金8000ルーブルを奪い取り、車両でその場から逃走した。その後約1時間後、逃走車両は同市ミーラ大通184番地所在の住宅付近で警察に発見・止められた。車内には3名の男性が情勢しており、うち1名は何かを運転席の後方に隠そうとしたので、これを取り押さえると、ペルナイフであった。3名は直ちに拘束され、このうちペルナイフの所持者には手錠がかけられた。被害者による確認が行われたが、奪われたものは発見されなかった。3名のうち2名はユジノサハリンスク在住者、1名はアゼルバイジャン出身者と判明した。
- ④ 2月9日深夜、ユジノサハリンスク市在住の3名の若者は、車でミーラ大通に所在のナイトクラブに向かい、同クラブの側で喧嘩が起きているのを認めると、3名のうち1人はそのままクラブの中に入ったが、残りの2人はその場の混乱に乗じて、喧嘩に加わっていた1人を自分達の車に引きずり込み、クラブから車で離れ、引きずり込んだ男性に車内で暴行を加え、所持していた金のネックレス、携帯電話を奪い、男性を車外に放り出した後、再び次に襲う相手を探した。次に同クラブから出て来た別の男性客を車に引き入れ、車内で同人に暴行を加えたのち、携帯電話、音楽プレイヤー及び現金を奪い、同人を車外に放り出して逃走した。被害者らが警察に通報したのち、翌朝市内をパトロール中の警察官が通報のあった車両を発見し、車内にいた被疑者の男性3名を拘束した。
- ⑤ 3月10日午後9時20分、ユジノサハリンスク市内で強盗事件が発生した。同市パヴェーダ大通に所在の商店「コランビヤ」店内に、3名の強盗犯が押入り、店内にいた店員の女性の頭部を殴打して、被害総額63万ルーブル

ル相当の金品を奪い逃走したものの。警察によると、店員の女性は負傷したものの、幸い軽傷であり入院の必要はなく、またその後の捜査で2名の強盗犯は拘束され、残り1名の行方を追っている由。

- ⑥ 3月26日、オジョルスキー村在住38歳の男性からコルサコフ市警察に、何者かにナイフで襲われ怪我を負ったとの被害届があった。警察の機動捜査活動により、ユジノサハリンスク市在住25歳、窃盗の前科を持つ無職男性による犯行と判明し、間もなく拘束した。同人は3月25日、被害者が警備員として警備をしていた別荘の近くを通りかかり、その際被害者が持っていたノートパソコンを奪おうと決め、被害者の警備員に向かってナイフで切り付け、その際にノートパソコンを奪い逃走した。その後男性は同パソコンを質屋に売り現金4000ルーブルを受け取り、食料品や衣類の購入に使用した。

イ 殺人

- ① 1月9日夕刻、ドリンスク中央病院の職員からドリンスク地区警察に、切創及び脳挫傷を負った男性患者が搬送され、その後死亡したとの通報が入った。警察は直ちに死亡男性の居宅に赴いたところ、そこには被害者の妻と思しき酩酊状態の43歳女性がいた。女性は拘束され、その場にあった血痕のついたナイフ、衣類、ガーゼを押収した。
- ② 1月13日早朝、ノグリキ地区ピリトウンスキー通所在の住宅が燃えているとの通報がノグリキ消防署に入った。平屋住宅の一室の窓からは煙が出、約2時間半後に火事は鎮火したが、消防隊員は消火の際、部屋に首に縄が巻かれ、外傷を有する男性の死体を発見し、警察に通報した。被害者は1959年生まれの同室住居人と判明し、頭部には穿孔痕が認められた。また同人居室金庫からは銃器M1121-12、金品数点及び自家用車が奪われている事が判明した。被害者の奪われた車の行方を追うため、州内全域の警察に指示が指令された後、翌14日午前10時、警察がノグリキの南約200キロ離れた地点のアレクサンドロフスクーサハリンスキーにて奪われた車両を発見し、更に周辺を捜索したところ、逃走者らしき者の居場所を突き止め、ノグリキ在住の4人の男女（男性16歳、18歳、女性21歳、25歳）を拘束した。彼等はいずれも酒に酔っており、奪われた銃器もその場で発見・押収された。
- ③ 1月18日、サハリン州連邦捜査委員会コルサコフ捜査局に、コルサコフ市ナゴールナヤ通3番地所在の住宅の一室で、外傷を有する26歳の同室住居人の死体が発見されたと通報が入った。その後の捜査委員会捜査員らの調べにより、犯行は31歳の被害者の親戚の男性によるものと判明し、その後同人は殺人の罪で逮捕された。同被疑者は被害者の部屋に訪れ、一緒に薬物らしき混合物を吸っていたところ、被害者が被疑者の妻の悪口を言ったことが原因で言い争いとなり、喧嘩となった。被疑者はそのうちナイフを手に取り、被害者の胸部にナイフを一突きした。被害者はその場に倒れ込み、その

まま死亡した。

- ④ 3月1日早朝、ユジノサハリンスク市ダリヌィ通10b番地にある住宅付近の道路脇で、生後約3カ月の女児の死体が発見された。鑑定の結果、死因は脳挫傷と判明し、前日の2月28日に死亡したものと推定された。直ちに捜査に着手したところ、同日女児の母親である34歳の前科を有する女性を被疑者と特定し、拘束した。同人は2月28日、飲酒し酔った状態で、泣きやまない女児の頭部を複数回殴打して殺害し、その日の夜を待って、自宅付近の道路脇に女児の死体を遺棄したものの。
- ⑤ 3月4日夕刻、救急病院からユジノサハリンスク市警察に、市内のとある住宅で40歳の女性の死体が発見されたとの通報が入った。女性はナイフで心臓を刺されて死亡したものと推定された。警察官らが通報のあった現場に臨場したところ、そこには飲酒酩酊状態の者数名が居たため、全員を殺人の容疑者あるいは関係者として警察に連行した。捜査員のその後の取調により、連行した者のうちの1人で、42歳の住所不定無職、前科持ちの男性を実行犯と特定した。

ウ 暴行・傷害

- ①〔傷害〕1月9日深夜3時頃、ティモフスク地区病院に脇部と首の血管部分に切り傷を負った31歳の地元在住の男性が搬送された。同じ頃、ティモフスク地区警察にとある部屋から叫び声や争っているような騒がしい音が聞こえるとの通報が入り、すぐさま警察が駆けつけると、そこには酒に酔った41歳の同住宅居住の女性がいた。女性は被害者の男性と飲酒していたところ、互いに酒の取り合いなどから喧嘩となった。喧嘩は激しさを増し、ある時女性はナイフを持って被害者の男性の左わき腹を刺し、更に同人の首の部分血管を切り付け、負傷させた。付近の住民らが機転を利かせて救急車を呼びつつ、警察に通報した結果、被害者は救急隊員に救助され、被疑者は警察に拘束されたもの。
- ②〔婦女暴行〕1月10日、サハリン州連邦捜査委員会ユジノサハリンスク捜査局にホルムスク地区プラウダ町に所在の養護施設に住む16歳の少女から、見知らぬ複数の男性に強姦されたと届けがあった。警察の捜査により2名の被疑者が拘束され、残り1名の行方についてもなお追跡中である。本件は1月5日から9日にかけてユジノサハリンスク市サハリンスカヤ通35番地の住宅の一室にて、被疑者らがこの未成年の女性を強姦したもので、彼女は逃れようとして、2階にあるこの部屋の窓から飛び降りた。
- ③〔婦女暴行〕1月17日、ユジノサハリンスク在住の17歳の少女からサハリン州連邦捜査委員会ユジノサハリンスク捜査局に、見知らぬ男性に強姦されたと通報が入った。捜査局はその後同女性に対する婦女暴行の容疑で25歳の同市在住男性を拘束した。同男性は自首し、1月16日深夜、被害女性を自宅に無理やり連れ込み、同女性に性的暴行を加えたことを自供した。
- ④〔傷害〕1月13日、スミルヌィフ村在住49歳の男性が65歳の元妻の自

宅で、元妻に心臓付近をナイフで刺されて負傷し、病院に搬送された。救急病院から通報を受けた警察が捜査を行ったところ、被害男性と元妻の女性は日ごろから口喧嘩が絶えず、犯行当日も元妻が財産を均等に分け合うことを提案したことに被害男性は腹をたてていた。一旦別れた後、夕刻再度被害者は元妻のところに行くと、元妻は飲酒し酔っており、再び財産分与の要求を突き付けたのをきっかけに再び喧嘩となった。元妻は、拘束された際ナイフを手に持っていた自分に被害男性が自ら倒れ掛かり、ナイフが男性に刺さったと証言したが、被害男性は手術前に元妻が故意にナイフで刺してきたと話していた。元妻は事件の翌日、弁護士を連れて警察に出頭してきた。

- ⑤〔傷害〕2月18日午後8時過ぎ頃、ユジノサハリンスク市立病院の施設内で発砲事件が発生し、負傷者が出た。34歳の同病院に勤務する衛生士が拘束された。現在同病院内では改修工事が行われており、そこには北朝鮮出身者も改修作業に従事しており、衛生士は改修工事に関し、直接的な関わりを持っていた。18日の当時は双方の間で何度も口げんかとなり、衛生士は一旦改修作業の現場を離れると、銃をもって再び現れ、北朝鮮作業員らの休憩部屋のドアに向けて複数回発砲した。数名の作業員は腕などを負傷し、中には指が吹き飛ばされた者もいた。その後警察が現場に駆け付け、間もなく衛生士は拘束された。衛生士の部屋からは140発の猟銃用弾丸が発見され、また猟銃本体は同人の居宅地下に隠匿されていたのが発見され、全て押収された。本件に関し在ナホトカ北朝鮮総領事館の職員が当地に訪れている。
- ⑥〔婦女暴行〕3月2日、アレクサンドロフスーサハリンスキー市在住43歳の男性は知人宅にて、知人とともに酒を暴飲していた。酩酊状態となった同男性は知人に頼み、そのまま知人宅に泊まることとした。その後深夜になり、同人は知人の5歳になる少女に性的暴行を加えたため、間もなく駆け付けた警察に拘束された。
- ⑦〔傷害〕3月4日、救急病院からユジノサハリンスク市警察に、36歳の男性が胸部に切創を受けて負傷し、病院に搬送されて来たとの通報が入った。警察官による捜査の結果、被害者の住居の隣に住む64歳の男性が、被害者が昼間から部屋でかけている音楽の音がうるさいことに悩み、当日も同人は音がうるさいことから、被害者宅を訪れ、音量を下げるよう申し入れたところ、喧嘩となり、その際この老男性が被害者にナイフで軽傷を負わせて部屋に逃げ帰り、被害者は自ら救急車を呼んで病院に搬送されたことが判明した。当時両名とも酒に酔った状態であった。

エ 窃盗

- ① 1月5日、コルサコフ在住の男性宅から宝飾品や多数の戦時勲章等が盗まれる窃盗事件が発生した。その後同被害者である男性が警察に通報し、警察により間もなく被疑者が拘束された。被害者によれば、1月4日被害者とその知人は通報者宅で新年を祝い飲酒していたところ口論となり、更に殴り合いのけんかに発展した。その際、被害者宅に訪れていた知人が一緒に連れて

来ていた17歳になる息子が2人を止めに入ることもしず、喧嘩の隙を見て通報者の携帯電話、医療箱、宝飾品や勲章数点、総額約88500ルーブル相当を盗んだ。通報者である家主は怪我をして病院に運ばれたが、その数日後警察に被害届を出して発覚したもの。拘束された被疑者2名は、盗んだものの一部を見知らぬ者に5000ルーブルで売り払っていた。残りの物は被害者に返還された。

- ② 1月25日、ノグリキ地区警察に同地区在住56歳の女性から、1月13日同女性の自宅から私物が盗まれ、被害総額は約30万ルーブルにのぼると通報があった。警察の捜査により、被疑者は同地区在住の18歳の男性と判明した。同男性は、同女性の部屋に侵入して、売りさばく目的で貴金属類を盗みだし町外れまで車で逃走したものの。その後しばらくして警察に拘束され、盗まれた貴金属類は警察が押収し、被害者に返還された。
- ③ 2月7日夕刻、ポロナISK地区警察に、地元魚加工工場経営の社長から通報があった。同社長によれば、2月5日深夜、工場の敷地内から8トン以上の冷凍魚が盗まれ、被害総額は約286000ルーブル以上に相当する由。警察の機動捜査活動により、犯行の痕跡などから、ポロナISK在住の40歳の男性を被疑者と特定した。同人は加工工場の警備員と共謀して、冷凍魚の入った袋計約390袋を運び出したもの。またその後の調べで同人は、これらの冷凍魚を誰かに売りさばいて現金を得ようと企んでいたが、買い取り先がみつからずに、そのままこれらの冷凍魚を街中の空き家に隠匿していたと供述した。盗まれた冷凍魚は供述に基づき、警察に発見・押収され、工場に戻された。
- ④ 3月8日早朝、オハ市内のとある商店付近を通行していた者が2人の男が店の中から現金自動支払機（ATM）を店外に運び出し、それを車両に積み込んで逃走する光景を目撃した。通行人は車両のナンバーを記憶しており、すぐに同店の店員にその事を告げた。交通警察が直ちに捜索を行い、間もなく市内のとある住宅敷地内にて駐車してある当該車両を発見し、付近住宅の居室内に被疑者2名に加え、その友人数名がいるのを認めた。ATMもその場にあり、工具で開けられた痕があったが、現金収納部分には到達していなかった。被害額は82000ルーブル、拘束された2名はオハ在住の若者であった。この2名は早朝買い物をしようと立ち寄った店でATMを見つけ、店員から死角となる場所にあることから、その場でATMを奪おうと謀議したものの。
- ⑤ 3月12日午後4時頃、とある女性からユジノサハリンスク市警察に、2名の若い男性が車上荒らしをして、車内から婦人用バックを取り出し、中身とバックを地面に投げ捨て逃走するのを目撃したとの通報が入った。通報者の詳細な目撃証言により、警察は市内サハリンスカヤ通りの路上にて被疑者2名を拘束し警察に連行した。2名は麻薬常習者で、窃盗の前科を有しており、犯行当日運転席ドアの鍵が掛かっていない車両を路上に認め、車内にあ

った婦人用の鞆から現金、キャッシュカード、車の防犯装置、家の鍵を奪ったもの。

オ 薬物・銃器

- ①〔薬物〕1月16日、サハリン州流通麻薬対策局麻薬捜査官らはユジノサハリンスク市内にて同市在住24歳の男性住居から合成麻薬を発見・押収した。押収した麻薬は鑑定の結果、有名な合成麻薬であるTMSRの一種で、押収量は合計110グラムと判明した。拘束された男性はこれらを自己消費の目的でタイから持ち込んだと供述している。
- ②〔薬物〕1月17日、トマリ地区警察に麻薬の製造場所となっている空き家があるとの通報が入った。通報のあった住所に警察官らが臨場したところ、そこには3名の男性がおり、身体搜索の結果内1人の37歳の男性から黄色の液状物が入った10ミリリットル容量の医療用注射器を発見・押収した。また同所では更に前科を持つ40歳無職の地元男性が押収した液状物入り注射器の準備と提供をしていたことが判明した。その他捜査員らは、同所から黒色液状物が入った容量250ミリリットルの瓶2本、脱脂綿、その他関連すると思料される物件を押収した。彼等は全員薬物中毒状態であった。
- ③〔銃器〕1月29日、ドリンスク地区警察はスタロドゥプスコエ村在住の男性から、不法に所持していた模造銃を含む銃器類を押収した。警察により押収された銃器類は猟銃M11-20、回転式けん銃と思われるもの、20口径の銃弾10発、12口径の銃弾13発、9ミリ口径の銃弾6発。男性によれば猟銃は数年前に人から譲り受けたもの、回転式けん銃様のものは自分で旋盤等により加工して造ったとのこと。
- ④〔薬物〕2月27日、サハリン州内務局の集中取締によって州内にて、大麻類の薬物の不法流通に関与している広域犯罪グループの活動が阻止された。その際通称「プラスチリーナ」と呼ばれる粘度状の大麻類麻薬5、5キログラム、11000回分使用量を押収した。押収物の闇市場における相場は330000ルーブルに相当する。この「プラスチリーナ」にはアラブ語による金色の刻印が押されており、中東方面から流通して来た大麻類であると推定される。
- ⑤〔薬物・銃器〕3月22日、トマリ地区警察に不法に薬物と銃器を所持している者がいるとの情報が入った。警察の捜査員らは情報に基づき、クラスノゴルスク村在住の31歳の男性が所有する倉庫内を搜索したところ、16口径の猟銃2丁、溶剤臭を伴う植物性の緑色液状物が入った瓶、特有の臭いを放つ、薬物らしき黒色液状物が入った瓶を発見・押収した。これらの押収物は現在鑑定が行われている。
- ⑥〔薬物〕3月25日、コルサコフ市において麻薬捜査官らは犯罪グループによる合成麻薬類の不法流通活動を阻止した。犯罪グループは2人のコルサコフ出身者で構成されており、彼等はインターネットを通じて喫煙用の混合物を自宅に配達されるように注文していた。彼等はしばらくすると「薬物の売

人」の得意先となった。麻薬捜査官らはインターネットで薬物を購入していたコルサコフ出身の男性2名及び彼らに薬物を販売していた売人を拘束した。彼等の身体捜索により、捜査官は植物性のものと思しき喫煙用の混合物約5グラムの入った透明の小袋を発見・押収した。更に捜査官らは売人の自宅を捜索した結果、喫煙用の混合物80グラム以上及びハッシシオイル0.96グラムを発見・押収した。

3 テロ・爆弾事件発生状況
特になし

4 誘拐・脅迫事件発生状況
特になし

5 日本企業の安全に関わる諸問題
特になし